

御郡方より牛馬金澤に柴抄附出申節、馬一疋に口引一人宛指添候様に、前々より申渡候通、向後彌々者共々急度御請取置可申候。且又野町一丁目祇園向小路之内牛馬不相通候様に、是又嚴重可申渡候。以上。

二月十六日

本保才三郎

山崎久兵衛

石川・河北郡十村中

右野町一丁目といふは、即ち横町の事なり。正徳の頃までも尙狹き小路にて、牛馬の通行を禁じたりしかど、其の後道路を取廣め、今の如くなりしと聞ゆ。

○泉寺町

本名泉野寺町といへり。泉野は、元祿十四年三月里長の言上書に、泉野は野田道より十町許、南伏見新村を限り、西は泉村を限り、東は野田山麓まで、北は犀川を限り、此間を泉野と申。以前は都而松原に而御座候。とありて、往昔は無毛の荒地なるを、元和の初松原をば町地となし、古寺町等にありし寺院をば泉野へ移され、町名を泉野寺町と呼べり。其の巨細は野田寺町の條に記載す。然るを後人、野

田道なる寺町を野田寺町と稱し、鶴來道なる寺町をば泉寺町と呼べり。故に野田寺町、泉寺町といふは、舊藩中は私稱なりとせしかど、明治廢藩置縣の後戸籍を編成し、町名改正の時、泉野寺町の本名を廢し、泉寺町、野田寺町の私稱をば本稱となしたり。按ずるに、元祿九年の地子町肝煎裁許附に、泉寺町・泉野寺町との兩町名を擧げたり。また享保十一年に筆記せし咄隨筆といふものに、野田寺町立像寺云々といふ事を載せたり。されば泉寺町・野田寺町と呼べるも、元祿・享保以前よりの事なりしと聞ゆ。

○太白山寶勝寺

臨濟宗妙心寺派也。由來書に云ふ。當寺開基千岳禪師、微妙公寛永八年七月泉野に而寺地千二百五十二坪九合拜領仕、同年創立仕。とあり。按ずるに、當寺開祖の千岳和尚は博識なるゆゑ、利常卿の御歸依僧にて、當寺を創立して後、河北郡長井谷傳燈寺の住職とせられ、彼の寺を再興せしめられたり。とあり。又龜尾記に云ふ。微妙公御鷹狩の時、今の千日町を通らせられしに、其の頃此の地に千岳禪師小庵を結び、讀經殊勝に聞えけり。依つて折々尋ねさせ

られ、甚だ師依し給ひ、後に此の禪師をして傳燈寺を中興せしめられたり。傳燈寺は法燈派なりしかど、此の時より妙心派と成りたり。といへり。

○千岳禪師傳

洛西正法山妙心寺開山本有圓成佛心覺照大定聖應國師十三世千岳和尚。諱名宗切。播州難波之産。奥村氏之子。澁州正傳寺賜紫惟天和尙嗣法之弟子。則正傳寺住持。後退院。元和三丁巳年加州金澤下向。於大豆田佛日山本光寺建立。爲住持。同五年七月。微妙公白山神殿造營。上梁文依命千岳撰述之。後於金澤鹽屋町德輝山大法寺建立。爲住持。其節於金澤城内。自伐梅木切株猛火燃出。以前田出雲有鎮火之命。千岳以偈鎮猛火。千岳記事云。金府城内有大梅樹。太守利常卿令伐之。後自此木之伐跡。夜々發出猛火。令府中寺社之徒祈之。終不停。卿則以前田雲州。令命於千岳。岳作偈而書紙。令貼木伐跡。忽猛火止。偈云。

金是金兮木是木。錯道元來金剋木。不信問鬼谷先生。杓人不截花山木。

寛永八年七月。於泉野寺町賜寺地。創立太白山寶勝寺。爲

住持。同十五年。於同泉野寺町賜寺地。嵩岳山少林寺創立之爲終焉地。微妙公賜銀若干。諸士亦奉加。同十九年三月。於本山妙心寺瑞世賜紫。勅許居成住持。直參内歸寺。此時以紫下緒進呈于藩公拜調。正保二年四月。陽廣公逝於金澤。天徳院法會修營。千岳奉追悼之偈。諷經燒香。同三年五月。瑞龍公三十三回忌法會。千岳諷經燒香。奉香語提唱。同四年七月本山再住。銀子賜之上京。翌慶安元年正月。

於江戸増上寺台德幕下十七回法會修行。從京師下向。納經燒香勤之。閏正月朔。大猷幕下並嚴有公拜調。吳服賜之。歸京本山住職相勤。歸寺如例以紫下緒進呈于藩公。加州瑞應山傳燈護國禪寺住職宗祝和尚遷化。傳法之弟子中絶及衰廢。依之。承應三年七月。微妙公諸堂再興。寺領田被加之。以千岳入院被命。爲中興之師。明曆元年七月本山爲三回之住持。輪差勤務之入費。微妙公賜之。住職中嚴有幕下不豫。於本山大般若轉讀。祈禱札以書翰呈上于江府寺社所。本山住職相濟歸國。如例紫下緒呈上于藩公拜調。同三年二月。小松天神社殿創立。上梁文依命千岳撰述之。萬治元年九月越中國新川郡天照皇大神之宮殿造立。上梁文亦依命千